

2024. 5.13

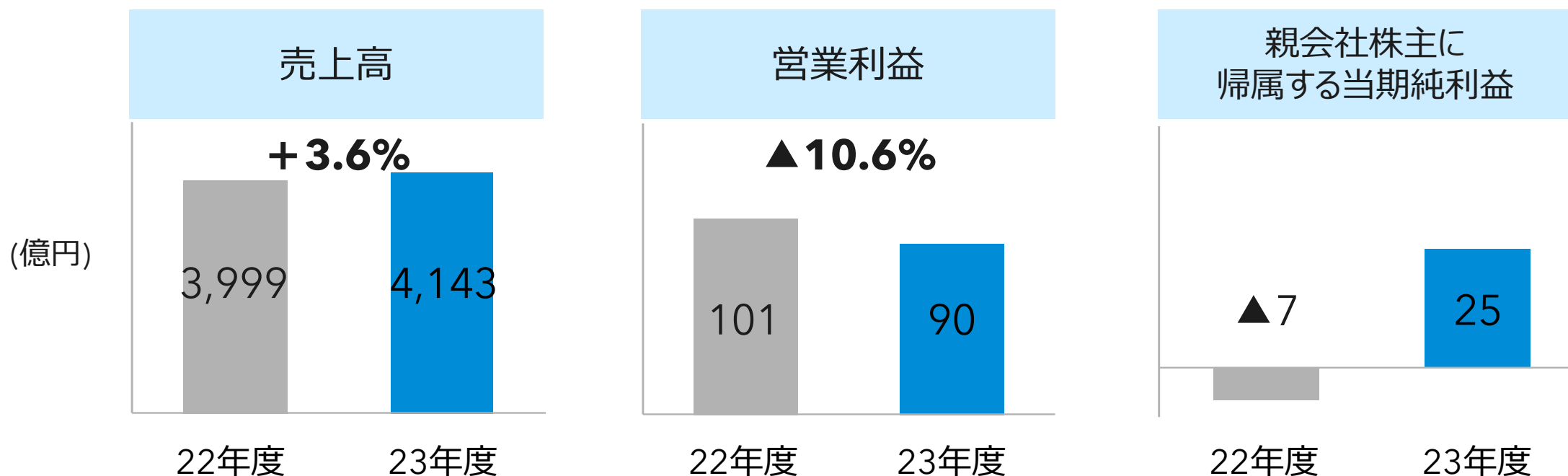
**TOYOBO**  
Beyond Horizons

# 2023年度決算説明

東洋紡株式会社

## 2024年3月期 通期実績

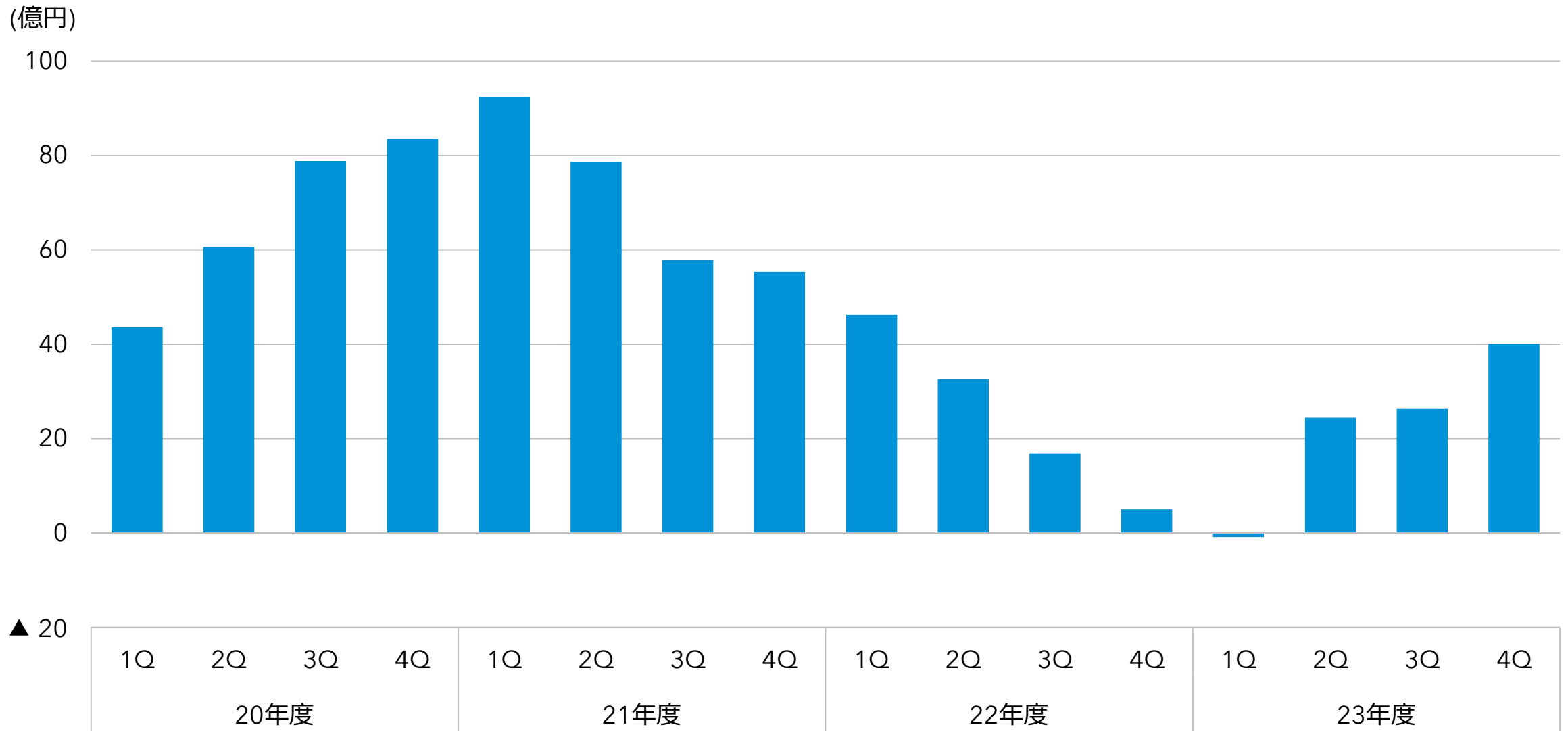
液晶偏光子保護フィルムは販売を伸ばすも、PCR検査用試薬の需要減や包装用フィルムの数量減により、増収減益。当期純利益は 25 億円



## 2025年3月期 通期予想

包装用フィルム、電子材料の需要回復に加え、要改善事業の対策を進めることにより、営業利益 170 億円、当期純利益は 26 億円を予想

# (参考) 四半期別営業利益推移



# 2023年度の事業環境（当初想定との差異）

セグメント	事業	当初想定（2023年5月時点）	現状（2023年度）	
			対想定*	当初想定との差異
フィルム	包装用	流通在庫の調整が段階的に解消	▲	在庫調整の長期化で需要回復遅れ
	工業用	液晶偏光子保護フィルムは需要堅調	○	強い需要あり
		MLCCは下期から本格的な需要回復	▲	本格的な需要回復には至らず
ライフサイエンス	バイオ	PCR検査用試薬の需要大幅減	▲	5類感染症移行により、需要は激減
	メディカル	人工腎臓用中空糸膜は需要堅調	○	堅調に推移
環境・機能材	樹脂・ケミカル	自動車生産の回復（半導体不足の解消）	—	—
		電子材料用途（中国・アジア）の需要回復	▲	需要回復遅れ
	環境・ファイバー	VOC回収装置は需要堅調	○	受注は堅調
		不織布マテリアルは競争激化	▲	事業環境の競争激化（衛材、土木）
機能繊維・商事	エアバッグ	自動車生産の回復（半導体不足の解消）	—	—
共通		原燃料価格高騰の影響残る	—	—

\*当初想定に対し、○：改善・拡大、—：想定通り、▲：悪化・減少

# 決算サマリー | PL

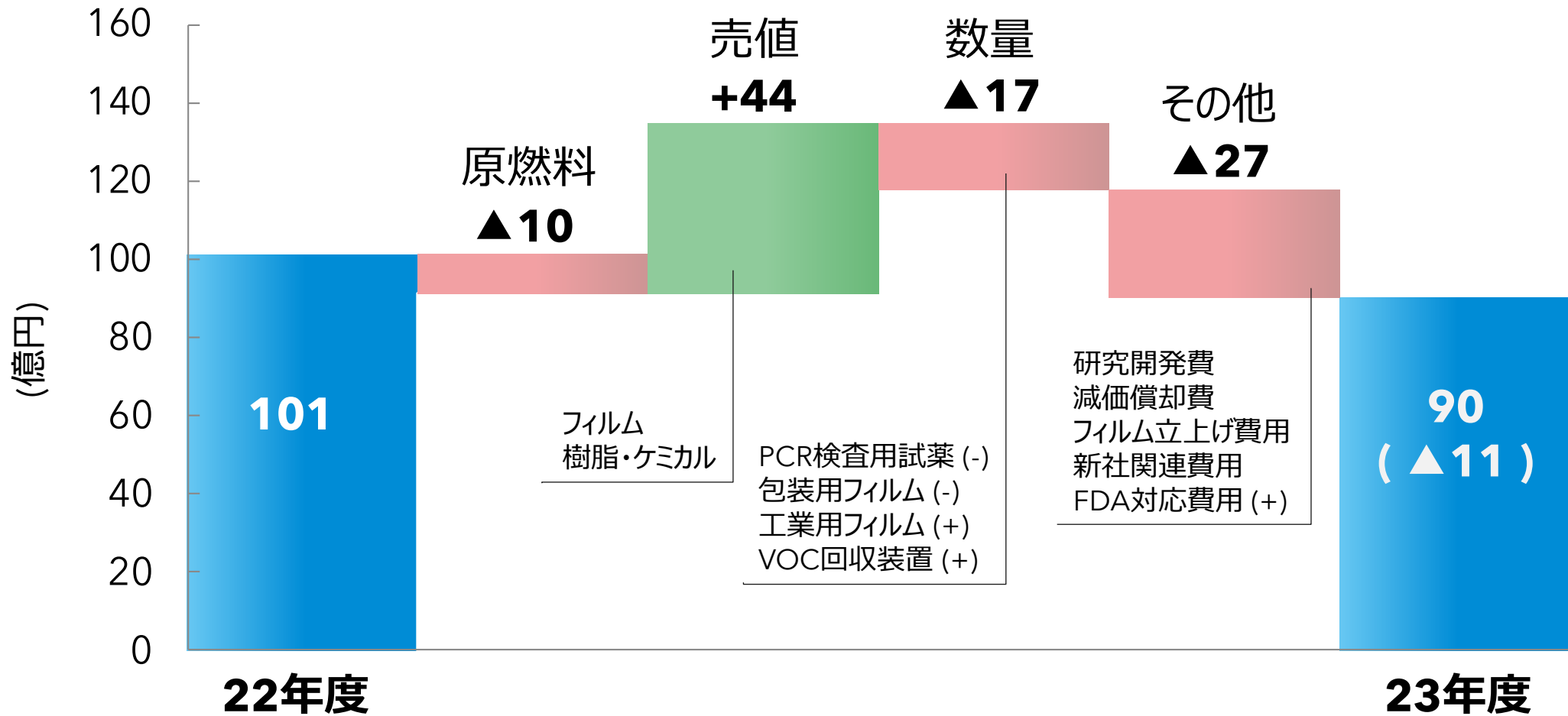
**TOYOBO**

(億円)

	21年度	22年度	23年度	増減		直近予想 (24/02)
				金額	率	
売上高	3,757	3,999	<b>4,143</b>	+143	+3.6%	4,100
売上総利益	961	850	<b>880</b>	+30	+3.5%	-
営業利益	284	101	<b>90</b>	▲ 11	▲ 10.6%	80
(率)	7.6%	2.5%	<b>2.2%</b>	-	-	2.0%
経常利益	231	66	<b>70</b>	+4	+5.6%	50
特別損益	▲ 83	▲ 60	▲ <b>14</b>	+46	-	▲ 8
親会社株主に帰属する当期純利益	129	▲ 7	<b>25</b>	+31	-	10
EBITDA* <small>* 営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)</small>	485	291	<b>288</b>	▲ 3	▲ 1.1%	280
EPS (円)	144.8	▲ 7.4	<b>27.9</b>	-	-	11.4
ROE* <small>* 当期純利益 ÷ 期首・期末平均自己資本</small>	6.8%	-	<b>1.3%</b>	-	-	-
ROIC* <small>* NOPAT ÷ (有利子負債 + 純資産)</small>	5.1%	1.7%	<b>1.3%</b>	-	-	-

■ 配当は、一株あたり 40 円 (予定)

# 営業利益の増減要因



	21年度 通期	22年度			23年度		
		上	下	通期	上	下	通期
為替レート (円/US\$)	112	134	137	135	141	148	145
国産ナフサ (千円/kl)	57	84	70	77	65	73	69

		(B)	(A)	(億円)
	22/3末	23/3末	24/3末	増減 (A)-(B)
総資産	5,178	5,889	<b>6,070</b>	+181
現預金	272	607	<b>338</b>	▲ 269
棚卸資産	960	1,219	<b>1,220</b>	+1
有形固定資産	2,276	2,402	<b>2,815</b>	+412
純資産	1,971	2,214	<b>2,301</b>	+87
自己資本	1,949	1,896	<b>1,970</b>	+74
うち利益剰余金	747	705	<b>703</b>	▲ 2
非支配株主持分	23	318	<b>331</b>	+12
有利子負債	1,912	2,294	<b>2,492</b>	+198
D/E レシオ	0.98	1.21	<b>1.26</b>	-
Net Debt / EBITDA倍率*	3.4	5.8	<b>7.5</b>	-

\* (有利子負債 - 現預金) <期末> / EBITDA

(億円)

	22年度	23年度	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	78	<b>216</b>	+138
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 360	▲ <b>588</b>	▲ 228
フリー・キャッシュ・フロー	▲ 282	▲ <b>372</b>	▲ 90
財務活動によるキャッシュ・フロー	613	<b>83</b>	▲ 530
その他	7	<b>20</b>	+13
現金及び現金同等物の増減額	338	▲ <b>269</b>	▲ 607
現金及び現金同等物の期末残高	602	<b>333</b>	▲ 269
減価償却費	190	198	+8
設備投資	427	616	+188
研究開発費	141	153	+12

■ 設備投資 セラコン用離型フィルム新機台、バイオ工場リニューアル、医用膜一貫生産工場



# 決算サマリー | セグメント別



(億円)

直近予想  
(24/02)

	売上高		営業利益		
	22年度	23年度	22年度	23年度	増減
フィルム	1,461	<b>1,565</b>	16	<b>27</b>	+11
ライフサイエンス	381	<b>346</b>	92	<b>44</b>	▲ 48
環境・機能材	1,108	<b>1,153</b>	40	<b>47</b>	+6
機能繊維・商事	924	<b>957</b>	▲ 25	<b>▲ 10</b>	+15
不動産・その他	126	<b>122</b>	22	<b>30</b>	+8
消去・全社	-	-	▲ 45	<b>▲ 48</b>	▲ 3
合計	3,999	<b>4,143</b>	101	<b>90</b>	▲ 11

30

45

40

▲ 12

25

▲ 48

80

# (参考) 四半期別営業利益推移 (セグメント別)

(億円)

	22年度				23年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
フィルム	25	▲ 0	▲ 4	▲ 4	12	2	1	12
ライフサイエンス	21	33	26	12	14	10	11	10
環境・機能材	9	12	8	11	▲ 7	10	26	17
機能繊維・商事	▲ 4	▲ 7	▲ 7	▲ 7	▲ 7	▲ 1	▲ 7	5
不動産・その他	3	6	7	5	4	10	7	9
消去・全社	▲ 9	▲ 11	▲ 13	▲ 13	▲ 17	▲ 7	▲ 12	▲ 12
合計	46	33	17	5	▲ 1	24	26	40

# 事業別 主なアクションプランと結果（2023年度）

セグメント	アクション（2023年5月時点での計画）	結果*
フィルム	<p>■ 収益の柱。収益回復</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・包装用フィルム：一層の価格改定によるマージン改善。新機台・新製品の本格立上げ</li> <li>・セラコン用離型フィルム：市況回復に合わせ、顧客の増産体制に対応。<b>新機台建設</b></li> <li>・液晶偏光子保護フィルム：顧客の増産体制に対応。価格改定</li> </ul>	<p>▲ ○ ○</p>
ライフサイエンス	<p>■ ポストコロナ収益減の挽回と成長策実行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バイオ：PCR検査用試薬は売上減少も、海外向け原料酵素拡販。<b>リニューアル増産投資</b></li> <li>・メディカル：人工腎臓用中空糸膜は、<b>需要増への対応と一貫生産工場建設</b> 急性血液浄化市場、抗体医薬製造プロセス市場へ上市・新商品投入</li> <li>・医薬品製造受託：<b>FDA・WL対応・GMP体制</b>。販売回復と収益性改善</li> </ul>	<p>○ ○ ▲ ○</p>
環境・機能材	<p>■ 東洋紡エムシー（株）：立上げ（機能別組織他）。変革プランの実行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境ソリューション：<b>LIBS向けVOC回収装置の海外加速</b>。FO・BC膜の新用途立上げ</li> <li>・工業用接着剤：一層の価格改定と数量回復。エレクトロニクス向けの新製品開発</li> <li>・エンジニアリングプラスチック：品質保証体制の確立。一層の価格改定と数量回復</li> </ul>	<p>○ ▲ ○</p>
機能繊維・商事	<p>■ 要改善事業の対策実行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エアバッグ用基布：収益性改善の為に一層の価格改定を実施。 <b>新原糸工場（タイ）の商業生産開始</b></li> <li>・衣料繊維：3工場の集約と海外拠点一体での事業運営による<b>収益性改善</b></li> </ul>	<p>○ ▲ ○</p>

\* ○：計画通り、▲：遅れ

(億円)

	22年度			23年度			増減		直近予想 (24/02)
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	金額	率	
売上高	743	717	1,461	781	785	1,565	+105	+7.2%	1,550
営業利益	24	▲ 8	16	14	13	27	+11	+65.6%	30
(率)	3.3%	-	1.1%	1.8%	1.6%	1.7%	-	-	1.9%

## 包装用フィルム

- 価格改定を進めるも、需要回復の遅れにより、荷動き低調。また、新機台の立上げ費用が高む

## 工業用フィルム

- 液晶偏光子保護フィルムは、強い需要に牽引され販売大幅増
- セラミックコンデンサ用離型フィルムは、本格的な需要回復には至らず

(億円)

	22年度			23年度			増減		直近予想 (24/02)
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	金額	率	
売上高	193	188	381	166	180	346	▲ 36	▲ 9.4%	340
営業利益	54	38	92	24	20	44	▲ 48	▲ 51.8%	45
(率)	28.0%	20.2%	24.2%	14.5%	11.3%	12.8%	-	-	13.2%

## バイオ

- 新型コロナウイルス感染症の収束に伴い、PCR検査用試薬が大幅に減少

## メディカル

- 人工腎臓用中空糸膜の販売が堅調

## 医薬

- 米国FDAからの Warning Letter 解除（2023年7月）を受け、収益性改善

(億円)

	22年度			23年度			増減		直近予想 (24/02)
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	金額	率	
売上高	557	551	1,108	525	628	1,153	+45	+4.1%	1,150
営業利益	21	19	40	4	43	47	+6	+15.3%	40
(率)	3.8%	3.5%	3.7%	0.7%	6.8%	4.0%	-	-	3.5%

## 樹脂・ケミカル

- エンジニアリングプラスチックは、自動車生産の回復により販売増
- 工業用接着剤“バイロン”は、中国向けの電子材料用途の販売が低調

## 環境・ファイバー

- 環境ソリューションは、LIBS\*製造工程用のVOC回収装置が販売を拡大
- 高機能ファイバーは、“イザナス”の釣糸用途が低調
- 不織布マテリアルは、衛材用途や土木・建築用途の販売減に加え、原燃料価格高騰の影響あり

\*リチウムイオン電池セパレータ

(億円)

	22年度			23年度			増減		直近予想 (24/02)
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	金額	率	
売上高	453	470	924	457	500	957	+33	+3.6%	930
営業利益	▲ 11	▲ 14	▲ 25	▲ 9	▲ 2	▲ 10	+15	-	▲ 12
(率)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

## 衣料繊維

- 国内生産拠点の集約や、不採算商材からの撤退など、事業構造改善が進む
- 製品価格の改定が進み、収益性改善

## エアバッグ用基布

- 自動車生産の回復に伴い販売量が増加。製品価格の改定が進み、赤字縮小

# 2024年度の事業環境見通し

セグメント	事業	前年度の状況（2023年度）	見通し（2024年度）
フィルム	包装用	在庫調整の長期化で需要回復遅れ	在庫調整終え、緩やかに回復へ
	工業用	液晶偏光子保護フィルムは強い需要あり	前年度並みの需要
		MLCCは本格的な需要回復には至らず	年度後半から回復
ライフサイエンス	バイオ	5類感染症移行により、PCR検査の需要は激減	生化学診断薬用酵素は需要堅調
	メディカル	人工腎臓用中空糸膜は堅調に推移	堅調に推移
環境・機能材	樹脂・ケミカル	自動車生産の回復（半導体不足の解消）	堅調に推移
		電子材料用途（中国・アジア）の需要回復遅れ	需要回復
	環境・ファイバー	VOC回収装置の受注は堅調	需要堅調
		不織布マテリアルは競争激化（衛材、土木）	厳しい競争環境は継続
機能繊維・商事	エアバッグ	自動車生産の回復（半導体不足の解消）	堅調に推移
共通		原燃料価格高騰の影響残る	国産ナフサは高止まり、石炭価格は落ち着く



# 2024年度 業績見通し

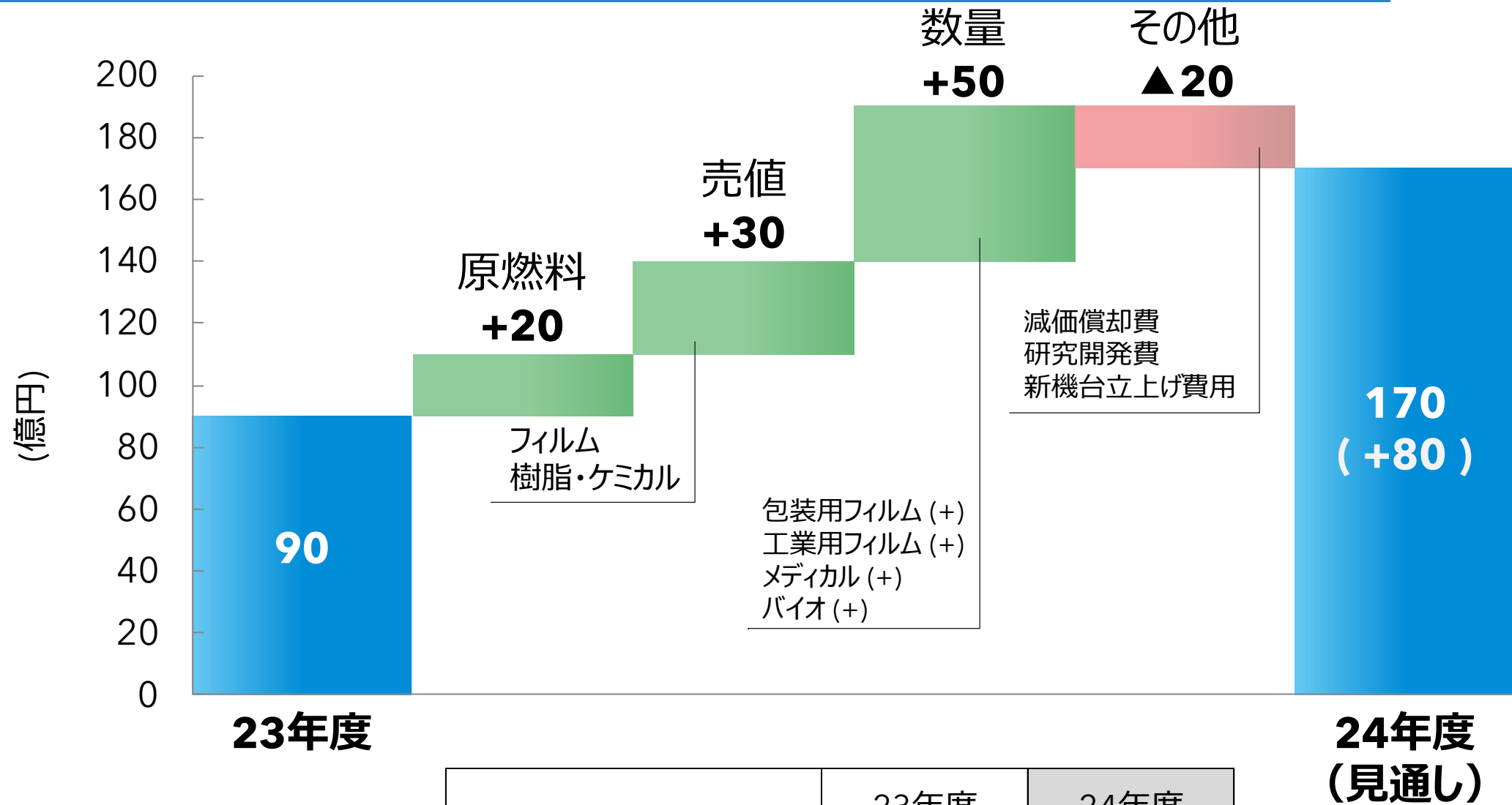
包装用フィルム、電子材料の需要回復に加え、要改善事業の対策を進めることにより、  
営業利益 170 億円、当期純利益は 26 億円を予想 (億円)

	23年度	24年度	増減	
	実績	見通し	金額	率
売上高	4,143	<b>4,350</b>	+207	+5.0%
営業利益	90	<b>170</b>	+80	+89.0%
(率)	2.2%	<b>3.9%</b>	-	-
経常利益	70	<b>115</b>	+45	+65.2%
特別損益	▲ 14	▲ <b>38</b>	▲ 24	-
親会社株主に帰属する当期純利益	25	<b>26</b>	+1	+5.9%
<hr/>				
EBITDA	288	<b>405</b>	+117	+40.6%
EPS (円)	27.9	<b>29.5</b>	-	-
<hr/>				
減価償却費	198	<b>235</b>	+37	+18.6%
設備投資	616	<b>500</b>	▲ 116	▲ 18.8%
研究開発費	153	<b>160</b>	+7	+4.5%

■ 設備投資 セラコン用離型フィルム新機台、バイオ工場リニューアル、重合設備更新

■ 配当は、一株あたり 40 円 (予想)

# 営業利益の増減要因



	23年度	24年度
為替レート (円/US\$)	145	145
国産ナフサ (千円/kl)	69	70

# セグメント別見通し

(億円)

	売上高		営業利益		
	23年度 実績	24年度 見通し	23年度 実績	24年度 見通し	増減
フィルム	1,565	<b>1,700</b>	27	<b>73</b>	+46
ライフサイエンス	346	<b>380</b>	44	<b>37</b>	▲7
環境・機能材	1,153	<b>1,200</b>	47	<b>80</b>	+33
機能繊維・商事	957	<b>950</b>	▲10	<b>0</b>	+10
不動産・その他	122	<b>120</b>	30	<b>25</b>	▲5
消去・全社	-	-	▲48	<b>▲45</b>	+3
合計	4,143	<b>4,350</b>	90	<b>170</b>	+80

## 未来をつくるために稼ぐ力を取り戻す

1. 安全・防災、品質、コンプライアンスの徹底（大前提）
2. 価値に見合ったプライシングの徹底
3. 要改善事業（低収益・赤字セグメント）対策
4. 成長投資の確実な回収と新の創出
5. 投資、経費の絞り込み、コストダウン

本資料中の見通しや目標等、将来に関する記載事項は、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の種々の要因によって、本資料の記載事項と異なる場合がありますことをご了承ください。

東洋紡株式会社

**TOYOBO**  
Beyond Horizons

補足

# セグメント別情報

TOYOB0

(億円)

売上高	22年度					23年度				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
フィルム	392	352	356	361	1,461	390	391	393	391	1,565
ライフサイエンス	87	106	100	88	381	81	84	87	93	346
環境・機能材	279	278	267	283	1,108	250	276	336	292	1,153
機能繊維・商事	222	232	223	248	924	222	235	232	268	957
不動産・その他	31	33	30	32	126	28	38	30	26	122
消去・全社	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	1,010	1,001	976	1,012	3,999	971	1,024	1,079	1,069	4,143

営業利益	22年度					23年度				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
フィルム	25	▲ 0	▲ 4	▲ 4	16	12	2	1	12	27
ライフサイエンス	21	33	26	12	92	14	10	11	10	44
環境・機能材	9	12	8	11	40	▲ 7	10	26	17	47
機能繊維・商事	▲ 4	▲ 7	▲ 7	▲ 7	▲ 25	▲ 7	▲ 1	▲ 7	5	▲ 10
不動産・その他	3	6	7	5	22	4	10	7	9	30
消去・全社	▲ 9	▲ 11	▲ 13	▲ 13	▲ 45	▲ 17	▲ 7	▲ 12	▲ 12	▲ 48
合計	46	33	17	5	101	▲ 1	24	26	40	90



# 主な指標の推移

**TOYOBO**

(億円)

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
	実績						見通し
売上高	3,367	3,396	3,374	3,757	3,999	4,143	4,350
営業利益	217	228	267	284	101	90	170
(率)	6.5%	6.7%	7.9%	7.6%	2.5%	2.2%	3.9%
EBITDA <sup>*1</sup>	375	398	458	485	291	288	405
EPS (円)	▲ 6.8	155.1	47.3	144.8	▲ 7.4	27.9	29.5
ROE <sup>*2</sup>	-	7.8%	2.3%	6.8%	-	1.3%	-
ROIC <sup>*3</sup>	4.4%	4.5%	5.0%	5.1%	1.7%	1.3%	-
減価償却費	158	170	191	201	190	198	235
設備投資	255	364	233	336	427	616	500
研究開発費	110	117	127	138	141	153	160
有利子負債	1,648	1,751	1,870	1,912	2,294	2,492	-
D/Eレシオ	0.93	0.98	1.01	0.98	1.21	1.26	-
Net Debt / EBITDA倍率 <sup>*4</sup>	3.8	3.8	3.3	3.4	5.8	7.5	-

\*1 営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)

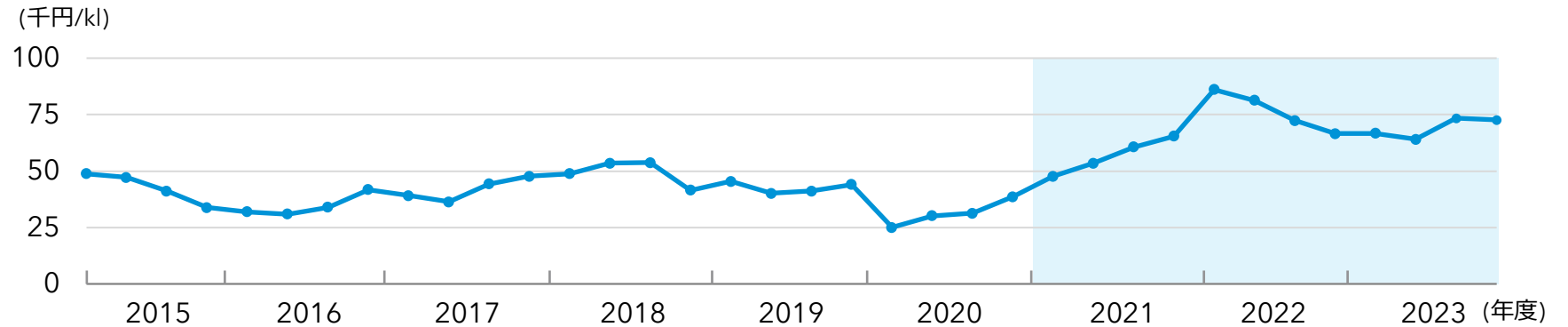
\*2 当期純利益 ÷ 期首・期末平均自己資本

\*3 NOPAT ÷ (有利子負債 + 純資産)

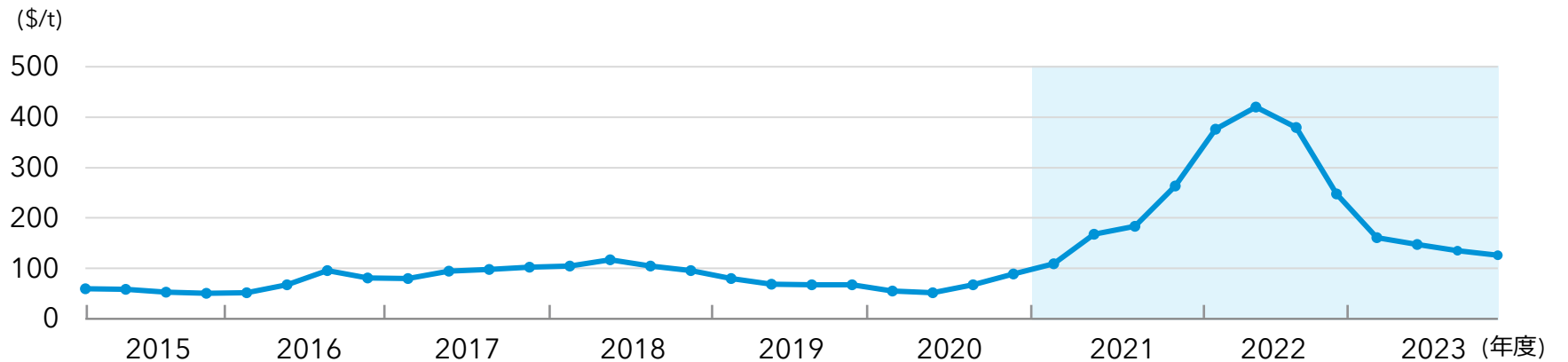
\*4 (有利子負債 - 現預金) <期末> / EBITDA

# 原燃料価格高騰に対する価格改定

## ■ 国産ナフサ価格



## ■ 石炭価格 (豪州一般炭市況価格)



## ■ 当社「原燃料」「売値」影響 (前年度比増減)

	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
原燃料 (A)	+71	+41	▲ 37	▲ 45	+29	+56	▲ 112	▲ 170	▲ 10	+20
売値 (B)	▲ 61	▲ 25	+16	+12	▲ 5	▲ 38	+47	+119	+44	+30
スプレッド (A+B)	+10	+16	▲ 21	▲ 33	+24	+18	▲ 65	▲ 51	+34	+50

## 包装用フィルム

### 市場

- ・2023年度 OPP\*フィルム出荷実績は下期にプラス転換
- ・2024年度 在庫調整を終え、緩やかな回復を予想

2024年度

- ・OPPフィルム新機台の本格寄与  
生産能力：年間約2万トン
- 強み：超高剛性OPPフィルムによるモノマテリアル化

\*二軸延伸ポリプロピレン

## セラコン用離型フィルム

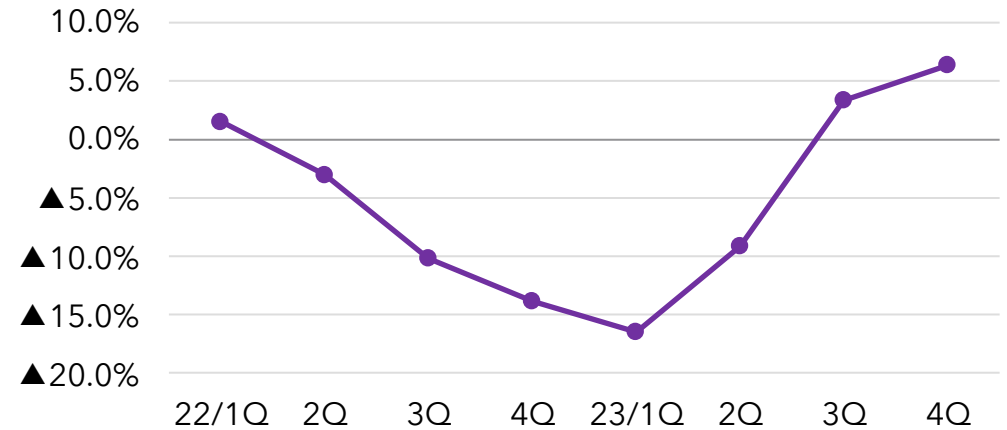
### 市場

- ・2023年度 MLCC輸出実績は下期にプラス転換
- ・2024年度 後半からの回復を予想

2024年度

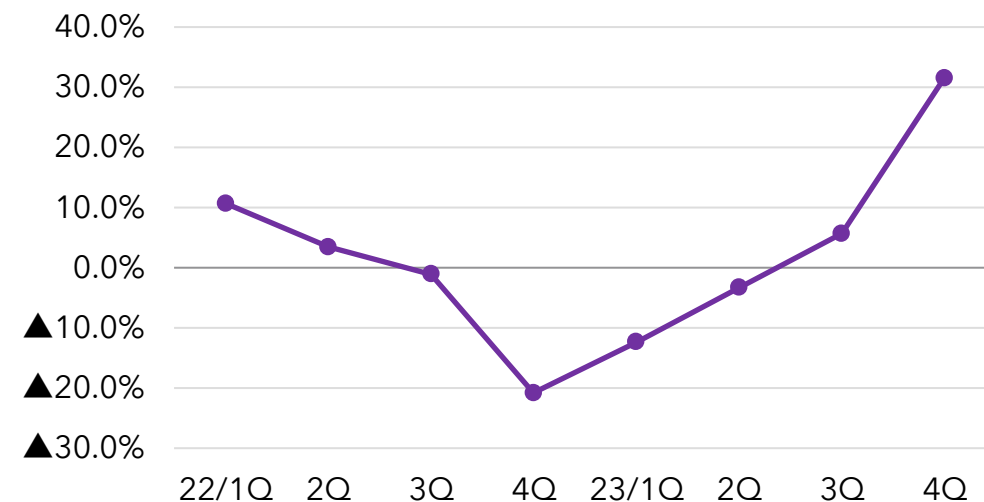
- ・市場回復に合わせ、顧客の増産体制に対応
- ・セラコン用離型フィルム新機台  
生産能力：年間約2万トン
- 強み：インライン・オフラインコートの高エンド製品供給技術

### 食品包装用OPPフィルム国内市場 出荷実績 (YOY増減率)



出所：日本ポリプロピレンフィルム工業会・会員出荷統計をもとに当社作成

### 日本からのMLCC輸出実績 (YOY増減率)



出所：財務省貿易統計をもとに当社作成

# 事業別 主なアクション (2024年度)

セグメント	アクション
フィルム	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>包装用フィルムの収益性改善と工業用フィルムの更なる拡大</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・包装用フィルム：一層の価格改定。新機台・新製品の本格立上げ、生産体制見直し</li> <li>・セラコン用離型フィルム：市況回復に合わせ、顧客の増産体制に対応。新機台立上げ</li> <li>・液晶偏光子保護フィルム：顧客の増産体制に対応</li> </ul> </li> </ul>
ライフサイエンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>新ラインの確実な立上げと成長策実行</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バイオ：生化学診断薬用原料酵素拡販。リニューアル増産設備立上げ</li> <li>・メディカル：人工腎臓用中空糸膜の一貫生産工場立上げ 急性血液浄化膜、プロセス膜、バイオマテリアルへの展開</li> <li>・医薬品製造受託：GMP体制維持。新規受注</li> </ul> </li> </ul>
環境・機能材	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>東洋紡エムシー (株)：成長策の成果実現、不織布マテリアルの収益性改善</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境ソリューション：LIBS向けVOC回収装置の海外販売拡大。FO・BC膜の新規案件獲得</li> <li>・工業用接着剤：環境対応型拡販、海外拡販、新ライン立上げ</li> <li>・エンジニアリングプラスチック：品質保証体制の確立。数量拡大と一層の価格改定</li> <li>・不織布マテリアル：国内生産体制の見直し、外部生産委託の拡大、開発品の強化・推進</li> </ul> </li> </ul>
機能繊維・商事	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>要改善事業の対策実行</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エアバッグ用基布：収益改善のロードマップ実行</li> <li>・衣料繊維：資産効率改善の追求</li> </ul> </li> </ul>

**TOYOBO**  
Beyond Horizons